

一小的研修 「図工の授業におけるICT活用」

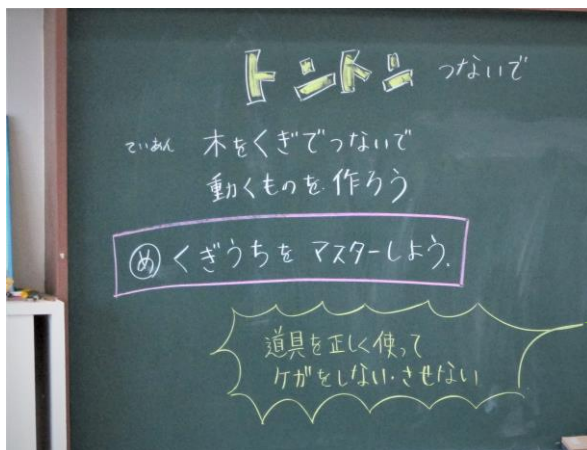
私たち教師にはI T Cを上手に活用して効果的な授業を展開することが求められています。第一小学校でも多くの教師が日常的にP C等を利用して学習指導を行っています、さらに指導力の向上を図る必要があります。

そのような中、図工担当教師がその専門性を行かし、図工におけるP C、動画や画像の効果的な使い方に向けて授業を行いました。その一部をご紹介します。

令和2年9月1日 第5・6校時
4年3組担任 (図工室)

図画工作科の学習 「トントンつないで」

○題材のねらい・・・角材と薄い板を釘で打って、つなぎ方や動き方を工夫することを通して、形や色、方法や材料を工夫する力を培うことです。



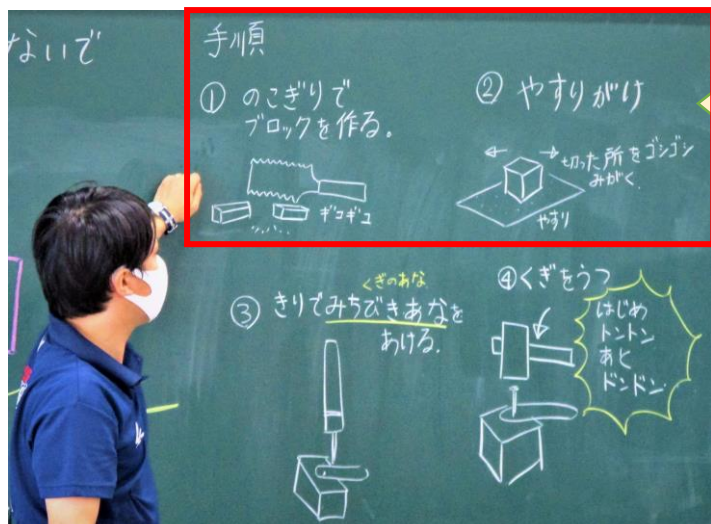
本時のめあては「釘の打ち方をマスターすること」です。そのために、正しい道具の使い方(技能)を身に付ける必要があります。



まず、PCとテレビを使って、動画を見せ、学習の見通しをもたせました。

テレビに映っているのは釘を打っている場面です。この後、動画を繰り返し流すことにより、児童が自分にとって必要な場面を繰り返し見ることができます。



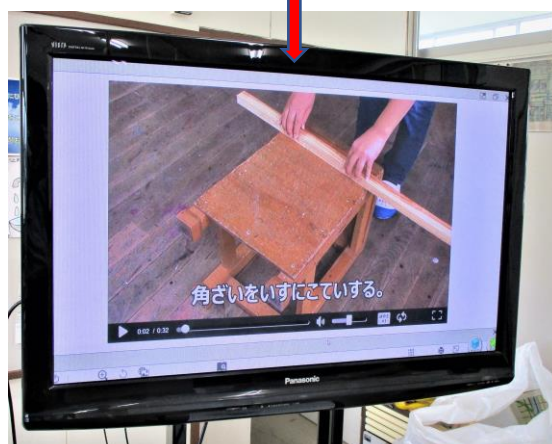


次に作業に入ります。

①「のこぎりできる」②「やすりがけ」

この二つの作業は、すでに学習したことがあります。ですから、簡単に説明をした後、すぐに作業に入りました。

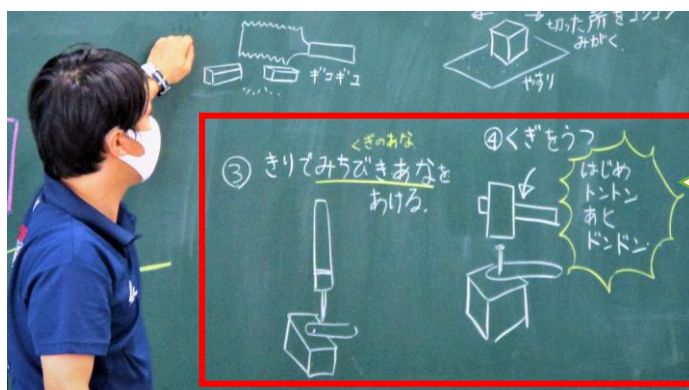
(作業の仕方についての動画は繰り返し流しています。)



児童は、自分のペースで学習を進めています。

教師は、児童の作業状況をしっかり把握し、助言することができます。

動画が教師の代わりの役目を果たしているので、
必要な児童に指導が行き渡ります。

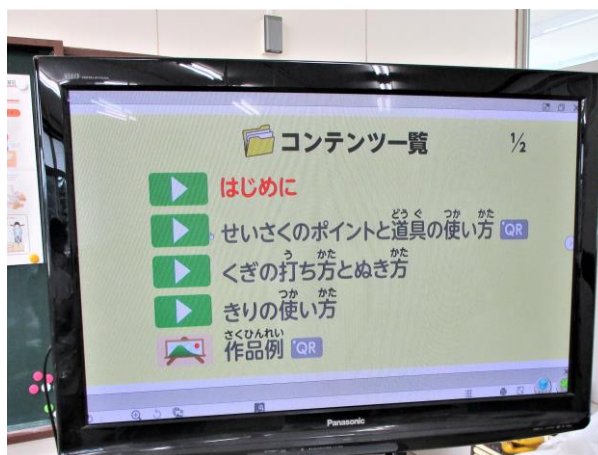


次の作業は③④です。

③きりでみちびきあなをあける

④くぎをうつ

これは、児童にとっては初めての学習です。



③と④の作業は今日の授業の中心部分です。この時は児童を複数のグループに分け、動画と教師の実演により丁寧に指導しました。

動画は必要な場面を繰り返し、自動的に見せることができます。この点が教材としての大きな利点です。くぎ打ちの技能を身に付けさせる上で、よいモデルが必要となります。子どもは正しい打ち方をイメージしながら作業することができます。



教師は絶えず新たな指導方法の習得が求められています。多様な業務がある中、研修の時間を十分に確保することは難しいですが、今日のようなミニ研修を積み重ねていきたいと思います。



この後も作業を続けながら、作品を仕上げていきます。

この場面で、もう一工夫しました。教師は持っているカメラで児童の作業を写真に撮り、それをテレビに映しました。そうすることで、児童は自分の作業の様子を見ることができ、自己評価することができます。また、教師は保存しておいた写真を見ることで、くぎ打ちの技能を評価することができます。